

あおぞら21



議会報告会開催 2

表紙：鬼は外 福は内（2月3日 節分 若葉保育園）

1月定例会

29年2月28日

No.114

熊本・みふね町議会

議会報告会開催

毎年開催している議会報告会を11月26日（土）に開催した。場所は役場大会議室（平坦）と上野保育園（山間）の2ヶ所。参加者は合計75人であった。

議会報告会での質問や答弁、その後の回答については以下のとおり。



議会報告会の様子（上野保育園）

■ 議会報告会（上野保育園） A班（参加者39人）

	質疑内容	議会回答（当日）	執行部回答
1	昨年度の議会報告会の報告はどうなっているか。	（事務局） 報告ができていない。 今年4月の議会広報紙に掲載する予定だったが地震のため発行（報告）できなかった。 今年度は間に合うよう（2月か3月ごろ）にする。	

	質疑内容	議会回答（当日）	執行部回答
2	地震被害からの復興は町だけでは難しい。 国への陳情、国会議員の手助けなどはあったか。	7月に正副議長と町長、11月に正副議長と全議員での2回、要望書・意見書を大臣や県選出国会議員、関係省庁へ提出した。	
3	熊本地震を忘れないようにしてもらいたい。	忘れられてはいけない。今後も要望活動を展開していく。	
4	藤木町政になり予算が少ないのではないか。上へのパイプ役がないのではないか。それに対する議会の対応はどうか。	県・郡一体（チーム熊本・上益城）となってやっている。 上へのパイプも構築している。	
5	県から震災に関する（備蓄など）アンケートがきたが、施設も何もなく答えようがない。国・県への要望も必要だが、いつ災害がくるかもわからない状況で緊急の場合の物資は必要である。町民の命を守る拠点をこの地域につくってほしい。	持ち帰り、協議したい。 ↓ 全員協議会へ	（総務課） 今後、町全体の防災倉庫建設に取り組みたい。各地域においては、コンテナ等の配備について検討していきたい。
6	山間・平坦地域の問題が現実化してきている。全壊となった高齢者世帯など復興のめどがたない世帯もいる。場所の問題もあるがその後の手当ては何かあるのか。	新聞にも災害復興住宅の件が掲載されている。被災者によっては家を建てることができない人もおり、災害復興住宅は必要と考える。町にも提言していく。	
7	元禄嘉永井手の水が少ない。土地改良区と協議して、防火用水になるくらい水を流してほしい。	豪雨まえの5月に応急修理を行ったが、豪雨で被害を被った。最小限かもしれないが努力している。 （地元区長） 大雨前には応急修理を行い茶屋本まで水を流す予定だったが、大雨で被害を受けそれができなくなってしまった。金もなくなかなかできない。	（土地改良区） 複数ヶ所の修繕が必要。現在、修繕を検討している。

	質疑内容	議会回答（当日）	執行部回答
8	上野の集会所が被災し、北田代分館を借りているが、分館をどうにかしてほしい。	持ち帰り、協議したい。 ↓ 全員協議会へ	（社会教育課） JA 上野支所跡地を上野分館として平成29年1月より使用できるように準備をしている。
9	鼎春園の復興費に約136万円。2年後、宮部鼎藏生誕200年の祭に約200万円。交流のある吉田松陰先生の所から義援金として2回にわたり計100万円いただいた。町にもぜひお願いしたい。	持ち帰り、協議したい。 ↓ 全員協議会へ	（社会教育課） 祭りの経費に対しての補助金のことなら、町長と協議を行い検討をする。
10	借地だが木倉など木造の仮設住宅があるが、2年で処理しないといけないのか。	基本的に仮設住宅は2年となっているが、どうなるか確定しているわけではない。 仮設住宅地21ヶ所のほとんどが借地だが、借地料はかかっていない。	（建設課） 応急仮設住宅はあくまでも仮設であり、建築基準法上は2年間に限定された住宅である。 木造であっても同様である。
11	虹の大橋の復旧を早くしてほしい。	町の管理。大型車が町道を頻繁に通ることがめずらしく、早急に対応が必要。	（農業振興課） 遅くなりましたが12月15日に補修を終えました。
12	国道445号線不通のため路線バスが上野地区を迂回しているが、臨時のバス停をつくってほしい。	（参加者） 会社に確認したところ、バス停の設置はできないとのことだった。 （議会） 確認し、報告する。	（企画財政課） バス停の設置は恒久的か臨時的かを問わずバス事業者が設置するもの。新設・変更・廃止にあたっては明確な理由とともに、様々な法的規制をクリアすることが必要。 どこに臨時バス停設置の要望を出されたのは不明であるが、まず町へ相談をしていただきたい。そのうえで、どのような方法が考えられるか検討したい。
13	445号線の開通はいつか。	12月で滝尾の下鶴。3月（今年度）に七滝までの予定。	（建設課） 11月30日に下鶴まで片側通行が可能となったが、その先の七滝までの開通（片側通行）については、当初、3月までの開通を目指していたが、現段階では見通しが立っていない状況である。



議会報告会の様子（カルチャーセンター）

■ 議会報告会（大会議室） B班（参加者36人）

	質疑内容	議会回答（当日）	執行部回答
1	震災の際、防災無線がないためか、情報が入ってこなかった。光ファイバーは、天候に左右される。今後、防災無線の導入は考えているのか。	防災無線が無いのは県内で当町だけだと思う。執行部と協議し早急に設置できるよう国に要請していきたい。	（総務課） 今後、29年度予算においてまず調査設計を行いたい。
2	防災訓練を町全体でやってほしい。	自主防災組織が実働できるよう、地域、町で取り組まなければならないと思う。	（総務課） 町全体ではなかなか困難。組織単位での取り組みを支援したい。
3	震災後、議員はどんな活動をしたか。	被災者の対応、被災地の確認。議会として特別委員会を立ち上げ国、県への要望活動を行った。	
4	議員が義援金を集めているのは法的には問題ないのか。 また集まった義援金は町へ寄付してもらえないのか。	この場で回答はできない。 議会で精査する。	（議会事務局） 義援金について、事実確認が必要。当人からの回答は次のとおり。 （当該議員からの回答） NPO ささえあう仲間を介しての活動 御船町・益城町へ寄付 一部を滝尾保育園の建設資金 一部を高木保育園の砂場（12月議会で議決）

	質疑内容	議会回答（当日）	執行部回答
4			避難所（スポーツセンター）へ 布団乾燥機 御船町の小学校へスポットクーラー、大分県由布市へ花火大会 資金寄付 御船町の公立保育園へスパー次 亜塩素水噴霧器 御船町の全保育園へ台湾バナナ 御船町へ寄付(1月12日手続き中) 高木保育園のテーブル購入 御船町社会福祉協議会へ寄付 (1月12日手続き中)
5	町や議会を通していただいた義援金の使途はどのようになっているのか。	約六千万については、すべて町で管理している。使途については配分委員会で決定される。	(企画財政課) 11月25日現在、町への義援金は57,057,307円となっている。全国から被災者の方へ支援をいただき感謝している。
6	県と日赤からの13億円の義援金の使途はどのようになっているのか。	13億円のうち11億円においては配分済み、残りは約2億円と聞いている。今後罹災証明が発行される被災者への生活支援金となる。	(企画財政課) 11月25日現在、県・日赤からの義援金13億4,200万円が町に配分されている。この中から被災者の方へ、県基準に基づき10億7,340万円を支給した。残高は2億3,080万円となっている。
7	復興計画について住民から情報収集をしてほしい。嘱託員会議等の回数も少ないと聞いている。住民の意見を反映する計画であってほしい。議員が主体となって作ってもらいたい。	復興計画は執行部が主体となっていくので議会も積極的に関わっていききたい。執行部にも報告する。	(企画財政課) 18歳以上の住民1,000名を対象とするアンケートを実施する。また、嘱託員（区長）、中学生にもアンケートをお願いする。この他、御船高校生を対象とする意見交換会や全ての方々から意見を聞く機会としてパブリックコメントをする予定である。このように、できる限り多くの方々の意見を復興計画の中に反映させることにしている。
8	行政報告会では説明が主で、住民の意見を言う機会が少なかった。もう少し住民の意見を聞いてほしい。	執行部に報告する。	(企画財政課) 同上
9	復興計画策定委員会の選定基準は。策定委員20名以外にも若年層などできるだけ様々な住民の意見を聞く機会を設けてほしい。	議会からも要望する。	(企画財政課) 御船町震災復興計画策定会議設置要綱に委員の選定基準が規定されている。具体的には各種団体の推薦、行政関係者、学識経験者の中から町長の委嘱によ

	質疑内容	議会回答（当日）	執行部回答
9			る20名以内の委員で組織するとされている。 住民の意見を聞く機会として、地区座談会、アンケート、高校生の意見交換会を行う。この他、パブリックコメントも実施する。
10	議会との意見交換会を地区で行うにはどうすればよいか。	議会事務局にあおぞら会議の申し込みをしていただきたい。	
11	給食センター地元説明が2回開催されたが、その後質問の回答を得ていない。	執行部に報告する。	（学校教育課） 町道総合グラウンド線の側溝敷設替え及び華はたるに登る町道については、建設課が南木倉区長に聞き取りに行くようになっている。堤の件については農業振興課が対応するようになっている。
12	ボランティアの「つながり」はどのような経緯で御船町は支援を受け入れたのか。 また仮設住宅住民にヒマラヤに学校設立のための寄付金を集めて回っていたが知っているのか。	町長の判断で受け入れたと聞いている。寄付金については議会では把握していない。	
13	13億円あった財政調整基金の用途についてお尋ねしたい。	ライフライン等緊急的に復旧が必要なものに基金を取り崩し対応してある。 県にも基金を取り崩した分については財政的支援を依頼している。	（企画財政課） 財政調整基金は、今回のような非常時に使うための貯金。このお金があってよかった。震災からの災害復旧について、町は補助事業を活用しているが、町の負担がかならず伴うので止むを得ず基金を取り崩すことになった。ご理解いただきたい。 大まかな12億円の使い道。道路関係3億7,000万円、農業関係2億8,000万円、学校関係8,300万円、社会教育関係8,000万円、福祉関係1億2,000万円、廃棄物関係3,000万円、公営住宅関係1,500万円、その他諸々に2億円を使った。 取崩した分の積戻しは、特別交付税で手当てされることを期待している。
14	仮設住宅の建設費用に解体費用は含まれているのか。	仮設住宅については、県が建設しているので、解体費用まで含まれている。	（建設課） 仮設住宅の使用期間2年間を経過した後の解体については、県が施行することとなる。

かがやく



熊本地震の教訓、防災にもっと関心を

私が住んでいる荒瀬地区は、以前は商店街で活気のある賑やかな所でした。今では、すっかり裏通りになってしまうましたが皆元気です。その中で区長をさせてもらっています。

ある日、静かで住みやすい地区を突然襲いかかった未曾有の熊本地震、誰も経験したことのない、もの凄い揺れ。いつまでも続く余震、瓦がガラガラと崩れる音。真っ黒な闇の中、鳴り響くヘリコプターの音。みんな怖くて家の外に飛び出し、懐中電灯を片手に声を掛け合い無事を確かめ合った。余震が続く度に悲鳴が上がった。

家の中に居るのが恐くて、近くに広い駐車場があったので、皆車を持ち込んだ。料亭を営んでいる店主には、車中泊用にマイクロスパスを貸して頂いたり、炊き出ししてもらった。また井戸やトイレも使用させてもらい、おかげでノロウイルス等の発生もなかった。

救援物資も、みなさんが協力して、自分だけでなく何軒かの分をまとめて取りに行かれ、それを配って

らった。これが近所の力、助け合いの気持ち、とても、とてもありがたい思いでした。

左岸であるため、交通の面で五庵橋が何よりも頼りです。今回の地震では幸いにも崩れませんでした。もう一回大きな地震がきたらと思うと、消防小屋も被災し、高齢者を避難させる公民館もなく、丈夫な作りの学校も高台だし、病院も一軒、AEDの設備も一軒ほどしかなく、もう少し酷い状態になっていたら、どうしてよいのかわからない。とにかく地震の教訓として、防災にもっと関心を持ち、賢くなれる町にしたいなあと思いました。それには行政にもですが、高齢者の方の昔のこの土地の話、訓練がもっと必要だと思います。何しろ左岸は土地がなくなかなか難しい所はありますが、住民には最低必要なものです。子どもたちの未来の為に最低なことには私たちがしてやるべきではないでしょうか。

今解体が進んでいますが、今だからこそ皆の協力が必要とされています。



滝川
堀野 弘子さん

議会の予定3月

- 1日 御船高校卒業式
- 6日 全員協議会（予定）
- 9日 議会（予定）
- 11日 御船中学校卒業式
- 13～17日 議会（予定）
- 23日 各小学校卒業式
- 25日 公立保育園卒園式

編集後記

今、辺りの田んぼでは初春の陽光を浴びて、小麦が青々と背丈を伸ばしている。

麦は踏むことにより茎が太くなり強い麦になるという。

二度と遭遇したくない、あの熊本地震から十か月が過ぎた。

地震では町全体が途轍もなく凄まじい打撃を受けた。多くの物を失くしたが、多くの気付きもあった。地域の絆の深さ、温かさを改めて知った。またボランティアに汗してくれる方々、そして遠方から支援物資を届けてくれる方々、感謝の思いも新たにしたい。

地震発生から1か月後こんなことがあった。北九州の若松町議会からあつあつのピザが届けられた。町議員自らの運転で6時間かかったそうだ。

その時の議員の言葉と顔が今も忘れられない。

「高速道路で支援物資を積んだ車両が幾台も往来していた。日本はあったかいですね」

そう話しながらポロポロと涙をこぼされた。

他者の痛みにも涙が流れる、私もそのような議員を目指したい。

中城 峯雄

議会広報編集特別委員会

発行責任者	井本 昭光
委員長	田上 忍
副委員長	岩永 宏介
委員	岩田 重成
委員	清水 聖
委員	中城 峯雄
委員	森田 優二



携帯サイトへはコチラから